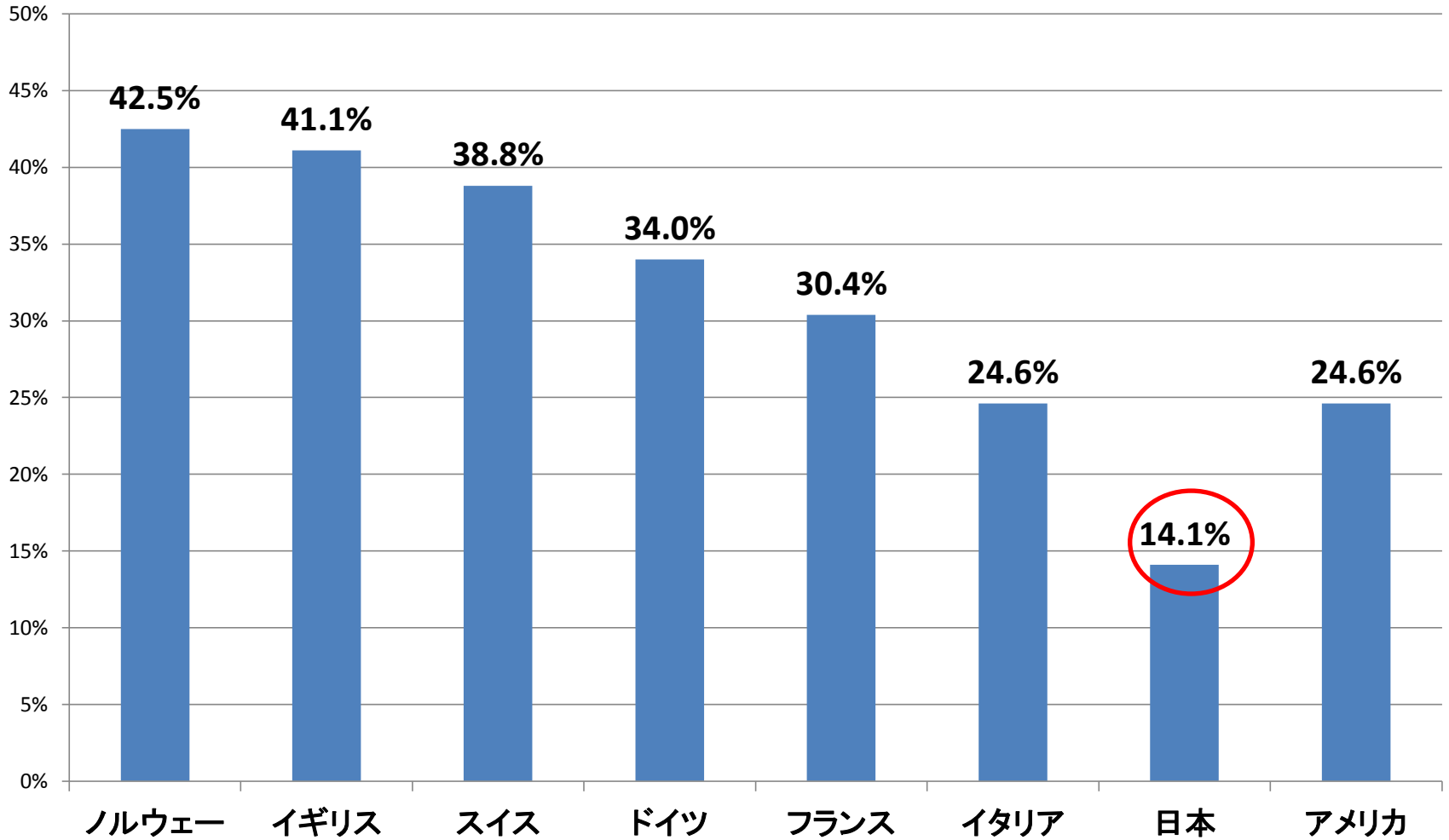


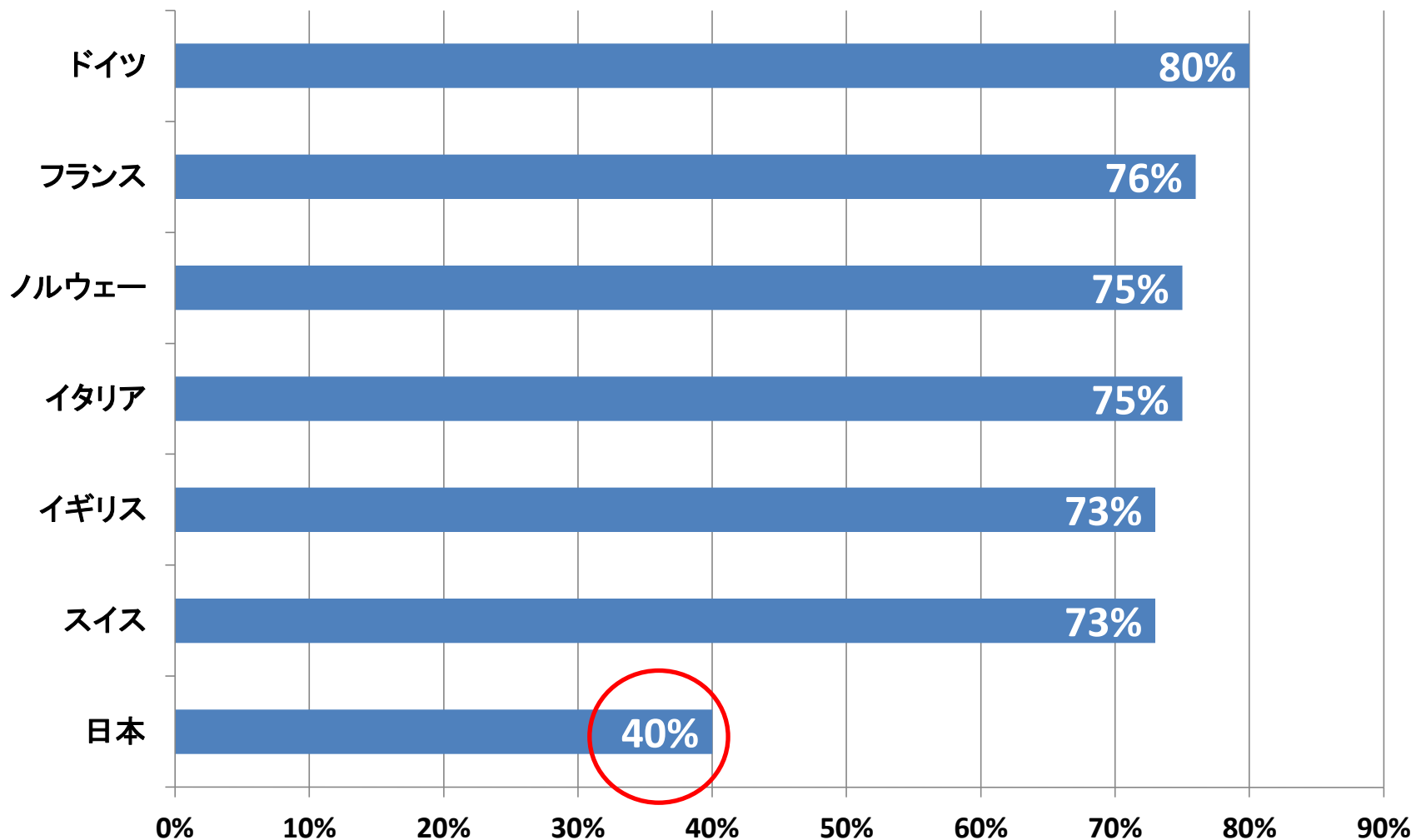
補聴器の現状と展望
各国の補聴器の供給体制

平成26年5月31日(土)
東京医科大学病院 臨床講堂
(一社)日本補聴器工業会
理事長 赤生秀一

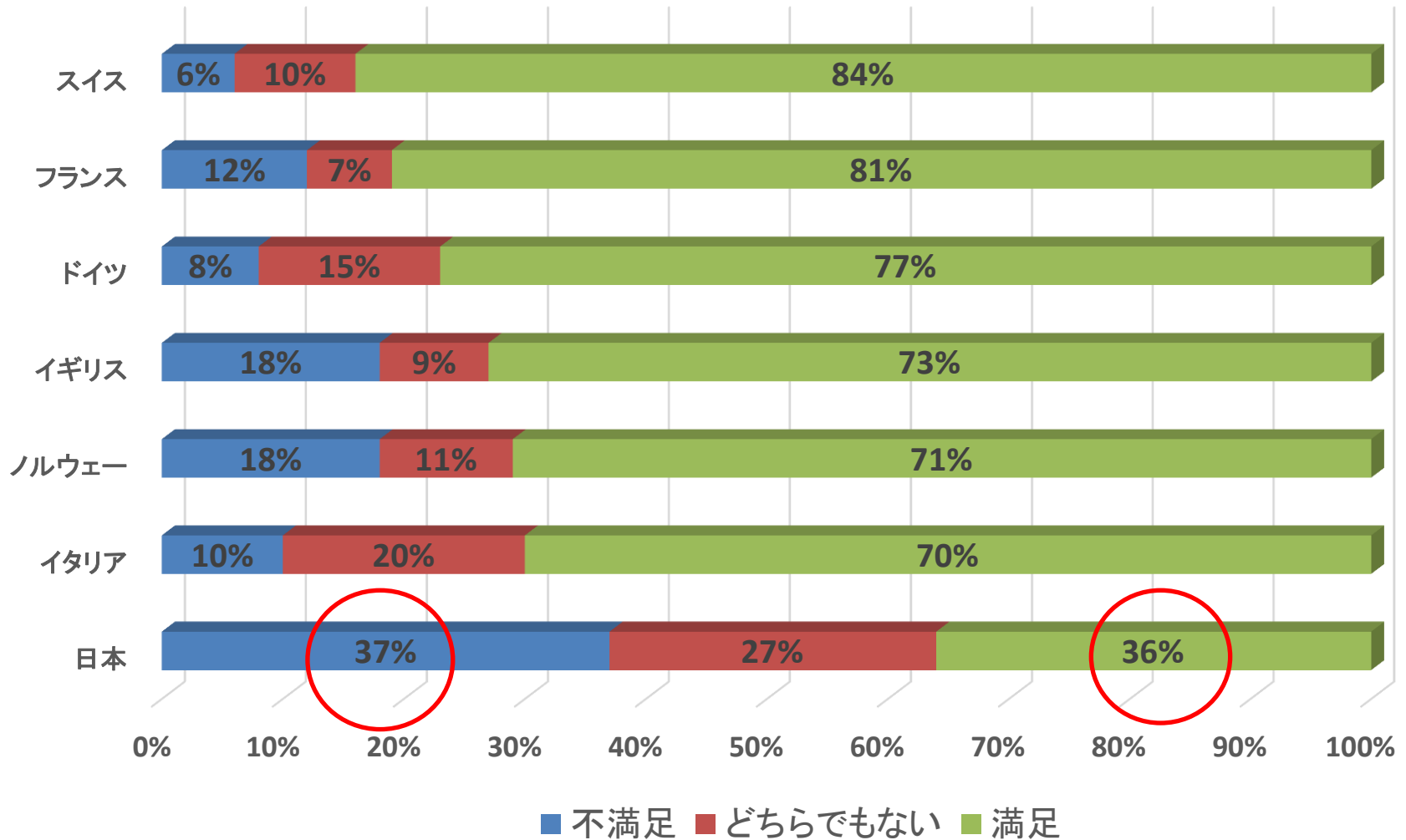
補聴器の使用率(8ヶ国)



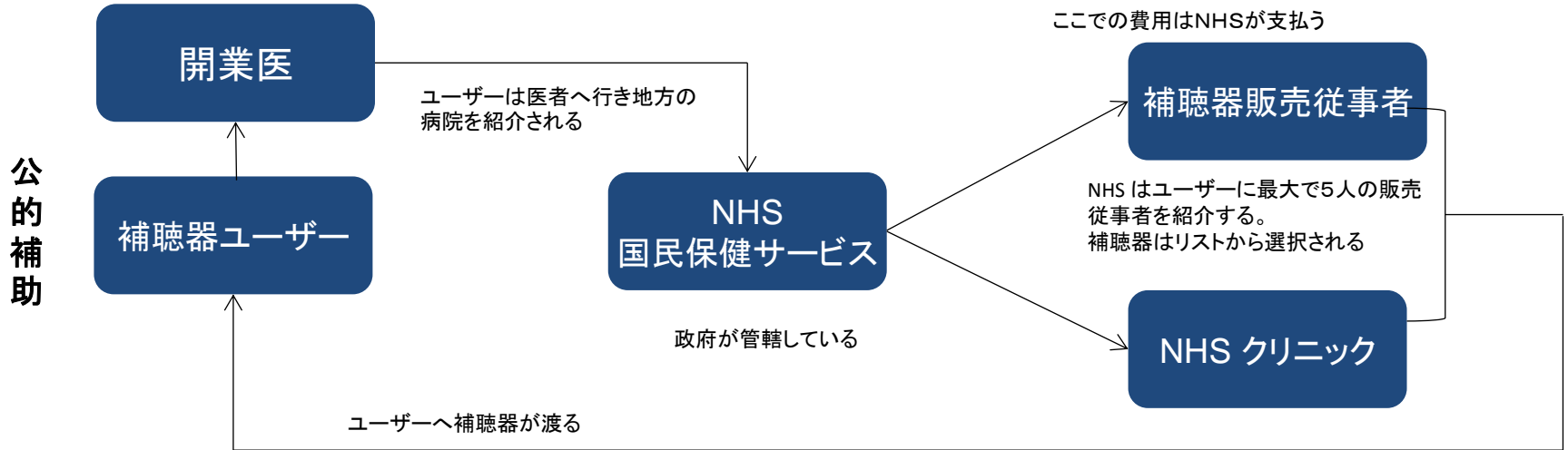
耳鼻科医師への補聴器相談率



補聴器の満足度

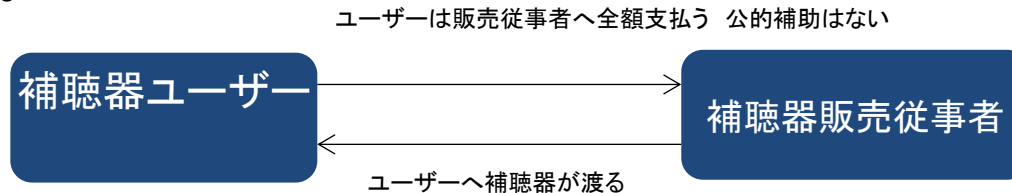


イギリス—公的補助の仕組み

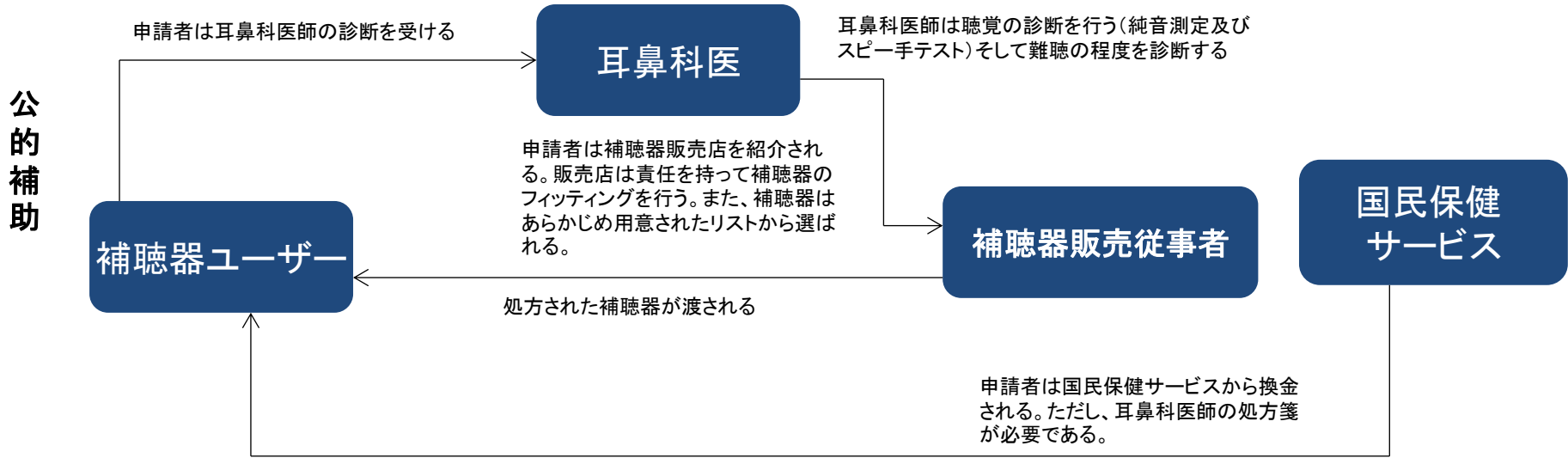


民間営業

ユーザーは直接補聴器販売従事者を訪問する。そこで補聴器・聴覚測定を受ける



フランスー公的補助の仕組み

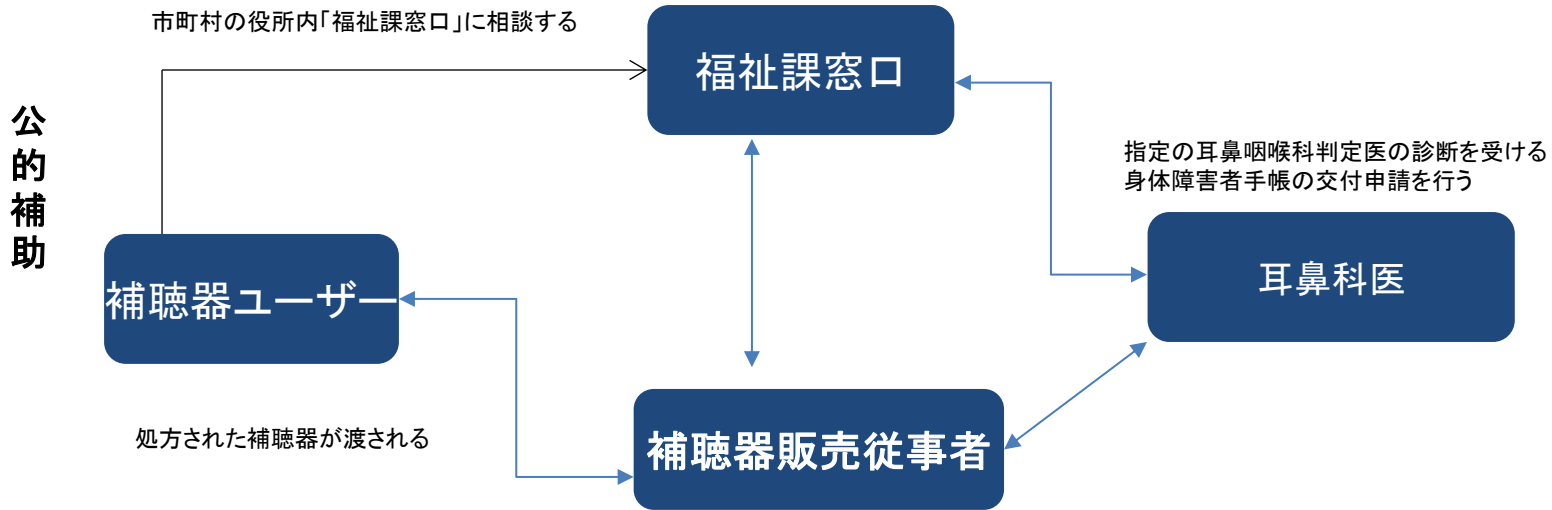


対象補聴器の区分

		小児	成人
クラス A	単純な難聴(急墜型ではない) 評価は5以下	900ユーロ (約126000円)	片耳装用 200ユーロの60% (約16800円)
クラス B	軽度難聴から中等度難聴まで(補充現象あり) 評価は8以上	1000ユーロ (約140000円)	
クラス C	軽度難聴から高度難聴まで(補充現象あり) 非対称もしくは急墜型 評価は9以上	1250ユーロ (約175000円)	両耳装用 2 x 200(60%)ユーロ
クラス D	軽度難聴から重度難聴まで 評価は10	1400ユーロ (約196000円)	

*フランス市場では98%がクラス Dである

日本一公的補助の仕組み



指定の補聴器販売店に行き補聴器を受け取る。

障害程度等級表

2級 重度難聴	両耳の聴力レベルがそれぞれ「平均100デシベル以上」のもの(両耳全ろう)
3級 重度難聴	両耳の聴力レベルがそれぞれ「平均90デシベル以上」のもの (耳介に接しなければ大声を理解し得ないもの)
4級 高度難聴	両耳の聴力レベルがそれぞれ「平均80デシベル以上」のもの (耳介に接しなければ話声を理解し得ないもの)
6級 高度難聴	両耳の聴力レベルがそれぞれ「平均70デシベル以上」のもの (40センチ以上の距離で発声された会話を理解し得ないもの)

日本と先進諸外国との仕組みの違い

- 補聴器の供給は法律で定められている
- 耳鼻科医師が難聴を判定する
- 補聴器技能者(公的・国家有資格者)が補聴器のフィッティングを行う
- 補聴器には公的補助がある
- 補聴器の両耳装用

認定補聴器技能者合格者トレンド

